

アカスジカスミカメ多発注意報 発令!!

～畦畔・農道の除草と本田薬剤散布の徹底を～

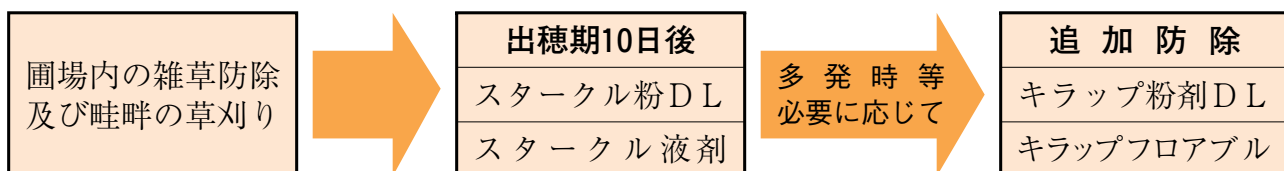
アカスジカスミカメ多発の恐れ

平成23年度農作物病害虫発生予察情報
注意報 第3号より(病害虫防除所発表)

これまで秋田県ではアカヒゲホソドリカスミカメが主体でありましたが、本年はアカスジカスミカメが多発しています。

今後の気象予報からも斑点米カメムシ類の発育に好適な環境が続くと見込まれていますので、イネの生長に合わせ、薬剤での防除を徹底しましょう。アカスジカスミカメは登熟後半まで加害することがあるので今後の予察に注意しましょう。

斑点米カメムシ類防除体系例



- 出穂10日以降は草刈り禁止期間となっています。
- 出穂10～15日までに草刈りを終えることが出来なかった場合など、やむを得ず草刈りする時は必ず畦畔を含む水田全面に斑点米カメムシ類対象の殺虫剤（下記薬剤）を茎葉散布した後に草刈りをしてください。
- 周辺より出穂の早い圃場では斑点米カメムシ類が集まりやすいので、出穂期に合わせて防除時期を調整しましょう。

◎農薬適正使用基準

| 散布時期 | 薬剤名 | 希釈倍率／散布量 (10aあたり) | 適正使用基準 | |
|-------------------|-----------|---------------------------------------|----------|------|
| | | | 使用時期 | 使用回数 |
| 出穂期10日後頃 | スタークル粉DL | 3kg | 収穫7日前まで | 3回以内 |
| | スタークル液剤 | 1,000倍／60～150 $\frac{L}{a}$ | | |
| 追加1回目 散布後14日後頃 | キラップ粉剤DL | 3～4kg | 収穫14日前まで | 2回以内 |
| | キラップフロアブル | 1,000～2,000倍 ／60～200 $\frac{L}{a}$ | | |



アカスジカスミカメ
特徴：体長5～6mm、背側中央部に橙赤色の太い縦線がある



アカヒゲホソドリカスミカメ
特徴：体長5～6mm、幅1mmで細長く触角・足が淡赤色

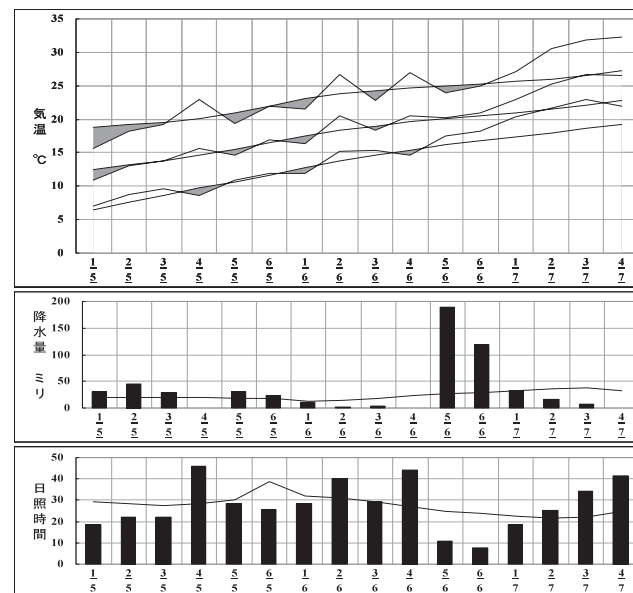


オオトゲシラホシカメムシ
特徴：体長6～7mm、背側全体が灰褐色で白色の斑点があり、肩の辺りにトゲがある

発行／秋田おぼこ農業協同組合 監修／仙北地域振興局農林部農業振興普及課
仙北農業共済組合

草丈の伸長に注意しましょう!!

気象経過及び予報



東北地方1ヶ月予報
(7月16日から8月15日までの天候見通し)
平成23年7月15日 仙台管区气象台発表

天気は数日の周期で変わるでしょう。天気の推移は平年と同様に前半は曇りや雨の日が多く、後半は晴れの日が多いでしょう。向こう1ヶ月の平均気温、降水量、日照時間は平年並みの確率が40%です。

水稻の生育状況 7月15日現在 (仙北地域振興局農林部普及指導課)

| | 田植月日 (月日) | 草丈 (cm) | 茎数 (本/m ²) | 葉齢 (葉) | 葉色 (SPAD) | 出穂期 (月日) |
|-----|--------------|------------|---------------------------|-----------|--------------|--------------------|
| 本年 | 5月25日 | 66.5 | 458 | 11.0 | 41.1 | 8月5日 (幼穂長からの予測) |
| 平年 | 5月19日 | 64.2 | 502 | 11.0 | 39.8 | 8月4日 |
| 平年比 | 晩6日 | 104 | 91 | ±0 | 103 | 晩1日 |
| 前年比 | 晩5日 | 93 | 106 | ±0 | 109 | 晩2日 |

田植作業が遅れ、生育も遅れていましたが、6月中旬以降の好天により葉齢は平年並まで回復しました。7月上旬から高温が続き、草丈が平年より長くなっています。葉色は平年よりやや濃くなっています。

積算気温からみた出穂期の予測

| 移植日(中苗) | 出穂期 |
|------------|------|
| 5月21日 田植始期 | 8月3日 |
| 5月27日 田植盛期 | 8月6日 |
| 5月31日 田植終期 | 8月8日 |

※7月20日以降は平年気温

安心のネットワーク
NOSAI 仙北から

園芸施設共済 台風シーズン到来!今すぐご加入を!



注意
台風の進路が発表されたときなどの
かけ込み加入はできません。

参考)4間×10間のハウス
28万9千円の補償金額
掛金は6,573円(12ヶ月)です

フタオビコヤガ(イネアオムシ)対策

多発の場合、早急な対策をお願いします
(病害虫防除所 防除対策情報第3号より)

葉色の濃い水田や山沿いの水田で集中加害を受ける場合がありますので、圃場ごとの発生状況を確認し、防除を行いましょ。う。

出穂期前に大きな被害を受けると登熟阻害の原因となるほか、老齢幼虫になると薬剤が効きにくくなるので被害初期に遅れないように防除しましょ。う。

| 散布のポイント | 薬 剤 名 | 希釈倍率／散布量 (10aあたり) | 適正使用基準 | |
|---------|-------------------|----------------------|----------|------|
| | | | 使用時期 | 使用回数 |
| 茎 葉 散 布 | ト レ ボ ン 粉 剤 D L | 3 kg | 収穫7日前まで | 3回以内 |
| | ス タ ー ク ル 粉 剤 D L | 3 kg | 収穫7日前まで | 3回以内 |
| | ディプテレックス粉剤DL | 3～4 kg | 収穫14日前まで | 4回以内 |
| | ディプテレックス乳剤 | 2,000倍／－ | | |

いもち病対策

早期発見・早期防除が決め手になります。

いもち病の発生時期は平年並と見られます。圃場巡回等で発病が確認された場合、直ちに予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン剤等）の茎葉散布を行います。その後、必要に応じてビーム剤を追加散布します。

【注意!!】

—— フサライドの総使用回数が3回に変わりました。 ——

ラブサイド剤の成分であるフサライドの総使用回数は6回から3回に変更となっています。農薬は使用の都度帳簿に記載し、ラブサイド剤やその混合剤（ブラシン剤等）の総使用回数が3回を超えないよう計画的に使用しましょ。う。

| 散布のポイント | 薬 剤 名 | 希釈倍率／散布量 (10aあたり) | 適正使用基準 | |
|---|---------------|----------------------------|----------|------|
| | | | 使用時期 | 使用回数 |
| 予 防 剤 と 治療剤の混合剤 | ブラシン粉剤DL | 3～4 kg | 収穫21日前まで | 2回以内 |
| | ブラシンフロアブル | 1,000倍／100 $\frac{1}{2}$ ℓ | | |
| 出 穂 直 前 と 穂 揃 期 の 2 回 ※多発時は傾穂 期に追加防除 | ラブサイド粉剤DL | 3～4 kg | 収穫7日前まで | 3回以内 |
| | ビ ー ム 粉 剤 D L | | | |
| | ラブサイドフロアブル | 1,000倍／－ | | |
| | ビ ー ム ゾ ル | 1,000倍／－ | | |

使用例

圃場巡回でいもち病が確認されたため、ブラシン剤を使用した。今後、ラブサイド剤・ラブサイドスタークル剤の散布を無人ヘリで予定しており、今のところフサライド含有薬剤を3回使用予定のため、後々いもちが見られる様であればビーム剤を使用する。

—— モンガード剤の登録失効について ——

下記の薬剤は平成23年3月31日をもって使用できなくなり、既に販売が中止しておりますが、在庫等で残っている場合は地域の処分方法に基づいて処分し、絶対に使用しないで下さい。

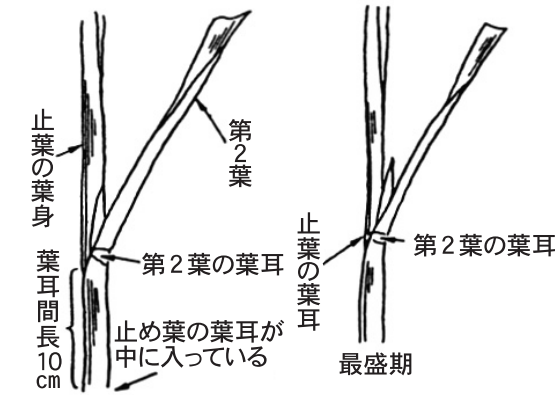
ジクロメジン含有農薬の薬剤名

| 種 類 名 | 薬 剤 名 |
|-------------------------|-------------------|
| シラフルオフェン・ジクロメジン・フサライド粉剤 | ラブモンジョーカー粉剤DL |
| ジ ク ロ メ ジ ン 粉 剤 | モ ン ガ ー ド 粉 剤 D L |
| エトフェンプロックス・ジクロメジン粉剤 | モンガードトレボン粉剤DL |
| ジ ク ロ メ ジ ン 水 和 剤 | モ ン ガ ー ド ゾ ル |

今後の管理について

ほ場巡回を徹底し、倒伏を防ぎ、品質の高い米づくりを!!

減数分裂期の見わけかた



減数分裂のはじめ

【生育時期と節間の伸長時期の目安】

| 減分始期 (出穂14日前) | 減分盛期 (出穂10日前) |
|------------------|------------------|
| 幼穂長2.5cm | 幼穂長11.5cm |
| 第4節間伸長終期 | 第3節間以降伸長 |

【倒伏注意の目安】

- ① 減分期の草丈が75cm以上（12葉の葉身長が40cm以上、葉鞘長が35cm以上）
- ② 第5節間が4～5cm以上、第4節間が9～10cm以上、合計で13～15cm以上

減数分裂期に草丈と節間長の確認を行いましょ。う。

倒伏の可能性が高いと判断された場合は、倒伏軽減剤の使用を検討します。

| 散布のポイント | 薬 剤 名 | 使用量 (10aあたり) | 適正使用基準 | |
|---------|---------------|---|-------------|------|
| | | | 使用時期 | 使用回数 |
| 湛水均一散布 | ロ ミ カ 粒 剤 | 2～3 kg | 出穂25～10日前まで | 1回 |
| | ス マ レ ク ト 粒 剤 | 2～4 kg | 出穂20～7日前まで | |
| | ビビフル粉剤DL | 3～4 kg | 出穂10～5日前まで | |
| | ビビフルフロアブル | 75～100 $\frac{1}{2}$ ℓ / 50～150 $\frac{1}{2}$ ℓ | 出穂10～2日前まで | |

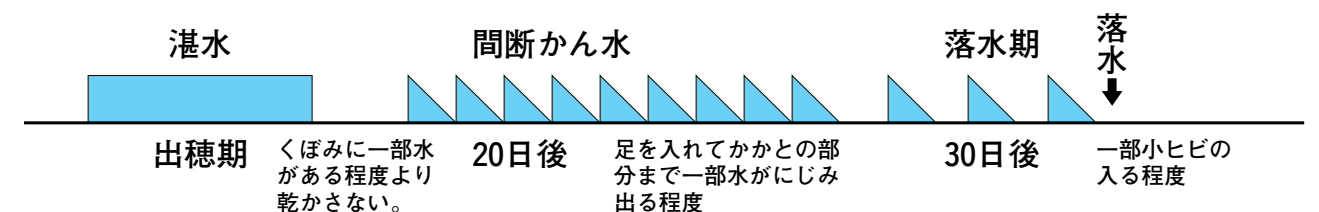
登熟期の水管理

水管理で白粒化を防ぎ、うまい米を作ります!!

出穂始めから10日間は水を多く必要とする時期となりますので、水深5～6cm程度の湛水を保ちましょ。う。その後は、2～3cmの浅水から間断かん水とします。

気温が30℃を超えるような高温下では、根の活力や光合成機能が低下し、白粒や胴割れの増加といった品質・整粒歩合低下を招くため、水の入替等を行い地温低下に努めましょ。う。

落水の時期は、概ね出穂後30日後とします。(早期に落水すると葉色の低下、枯れ上がり、根の機能減退により登熟が妨げられ収量、品質、食味が低下します。)



カドミウム対策

平成23年2月28日から米のカドミウム基準値が引き下げられました。

食品衛生法における米のカドミウム濃度の基準値は、これまで1.0ppm未満でしたが、平成23年2月28日から0.4ppm以下になりました。このため、これまで以上に徹底したカドミウム米発生防止対策が必要になります。

カドミウム米対策地域では、出穂前後各3週間（7月15日～8月25日）湛水管理を行います。